

令和7年度（2025年度）
第49回 東海北陸公立学校英語教育研究会
石川大会

大会テーマ

多様性と豊富な英語のやり取りにあふれた教室



日 時 令和7（2025）年8月7日（木）～8日（金）

会 場 石川県地場産業振興センター 本館

主 催 東海北陸公立学校英語教育研究会
第49回東海北陸公立学校英語教育研究会石川大会実行委員会

後 援 石川県教育委員会
金沢市教育委員会
公益財団法人 日本教育公務員弘済会石川支部

目 次

日 程	2
記念講演会	4
「児童生徒の『可能性』を信じて関わる英語授業 ～学力保障と人間的成長の両立を目指して」 大阪教育大学 教授 加賀田 哲也 氏	
映像による中学校授業研究協議(公開授業)	6
「中学校2年：基礎力の徹底を目指した文法指導の授業 ～形容詞の最上級の導入からプラクティスの提案」 授業者：四間丁 由起子（能美市立根上中学校 教諭） 分析者：加賀田 哲也（大阪教育大学 教授）	
分科会発表	
第1分科会A（大ホール）	10
『輪島市の現状と課題の克服に向けて ～インプットからアウトプットにつなぐ～』 発表者 輪島市立門前中学校 山本 安博 教諭	
第1分科会 B（第一研修室）	12
『小中連携を大切にしたい英語教育の充実』 発表者 小松市立矢田野小学校 坂上 智子 教諭	
第2分科会 A（大ホール）	14
『「意欲をもって学びに向かう英語教育」-令和の日本型学校教育を通して-』 発表者 加賀市錦城中学校 小川 健生 教諭	
第2分科会 B（第一研修室）	16
『英語によるコミュニケーション能力の育成 ～「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める指導法の工夫～』 発表者 かほく市立河北台中学校 蔵谷 朋也 教諭	
第3分科会 A（大ホール）	18
『英語で伝え合い、Communicationを図ることができる 実践的英語力の育成のために ～生徒に委ねる時間の設定を通して～』 発表者 七尾市立能登香島中学校 多知 雄太郎 教諭	
石川県内各地区の研究(金沢、白山野々市、能美・川北)	20
各県研究および活動報告	26
各県研究組織・各県連絡先	35
東海北陸公立中学校英語教育研究会会則・開催順序	36

日 程

■第1日目<2025年8月7日(木)> 石川県地場産業振興センター

12:00 12:30 12:50 13:00 14:30 14:40 15:30 15:40 16:30 18:30 20:30

受付	開会行事	休憩	記念講演	休憩	公開授業	移動	研究協議会 第1分科会 AとB	移動 休憩	交流懇親会
----	------	----	------	----	------	----	-----------------------	----------	-------

1 開会行事 (12:30~12:50) 大ホール

- (1)会長あいさつ
- (2)来賓あいさつ・紹介
- (3)連絡事項

2 記念講演 (13:00~14:30) 大ホール

「児童生徒の『可能性』を信じて関わる英語授業～学力保障と人間的成長の両立を目指して」

大阪教育大学 教授 加賀田 哲也 氏

3 映像による中学校授業研究協議(公開授業) (14:40~15:30)

大ホール

「中学校2年：基礎力の徹底を目指した文法指導の授業

～形容詞の最上級の導入からプラクティスの提案」

授業者：四間丁 由起子 (能美市立根上中学校 教諭)

分析者：加賀田 哲也 (大阪教育大学 教授)

4 研究協議会 第1分科会 (A・B 15:40~16:30)

第1分科会 A (大ホール)

『輪島市の現状と課題の克服に向けて～インプットからアウトプットにつなぐ～』

発表者：輪島市立輪島中学校 山本 安博 教諭

第1分科会 B (本館2階 第1研修室)

『小中連携を大切にした英語教育の充実』

発表者：小松市立矢田野小学校 坂上 智子 教諭

■第2日目 <2018年8月8日(金)> 石川県地場産業振興センター

8:50 9:15 9:45 9:55 10:40 10:50 11:35 11:50

開場	各県 活動報告	休 憩	研究協議会 第2分科会 AとB	休 憩	研究協議会 第3分科会 A 各県代表者会議	閉会 行事

1 各県活動報告 (9:15~9:45) 大ホール

(1)各県報告

(2)質疑応答

2 研究協議会 第2分科会 (A・B 9:55~10:40)

第2分科会 A (大ホール)

『「意欲をもって学びに向かう英語教育」-令和の日本型学校教育を通して-』

発表者： 加賀市立錦城中学校 小川 健生 教諭

第2分科会 B (本館2階 第1研修室)

『英語によるコミュニケーション能力の育成

～「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める指導法の工夫～』

発表者： かほく市立河北台中学校 蔵谷 朋也 教諭

3 研究協議会 (10:50~11:35)

第3分科会 A (大ホール)

『英語で伝え合い, Communicationを図ることができる実践的英語力の育成のために』

～生徒に委ねる時間の設定を通して～』

発表者： 七尾市立能登香島中学校 多知 雄太郎 教諭

4 各県代表者会 (10:50~11:35) 本館2階 第1研修室

※参加の各県代表者は移動

5 閉会行事 (11:35~11:50) 大ホール

(1)閉会のあいさつ

(2)次年度開催権あいさつ

(3)諸連絡

記念講演会

演題

児童生徒の『可能性』を信じて関わる英語授業～学力保障と人間的成長の両立を目指して

講師

大阪教育大学多文化教育系 英語教育部門 教授 加賀田 哲也 氏

州立ワシントン大学 (University of Washington) にて学士号 (言語学) および修士号 (教育学)、大阪大学人間科学研究科より博士号 (人間科学) 取得。英語授業研究学会理事 (前・会長)、日本児童英語教育学会理事、関西英語教育学会理事。編著書に『最新 小学校英語内容論』『最新 英語教育法入門』『心を育てる英語授業、はじめましたー教師たちの挑戦と実践』(いずれも研究社)、共著書に『英語授業改善への提言』『Q&A 小学/中学校/高校英語指導辞典』(いずれも教育出版) など多数。文部科学省検定済教科書英語 (小・中・高) の著者

第2学年1組 英語学習指導案

日時: 令和6年10月24日(木) 第5限
 指導者: 四間丁 由起子
 ニコラス・ジェイデン・バーグホルム
 場所: 2年1組教室

1 単元名 Unit 6 Research Your Topic (New Horizon English Course 2)

2 単元の目標

- ・比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて伝え合うことができる。【知識及び技能】
- ・調査や発表の効果的なやり方について考えるために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり、特徴を比較しながら調査の結果や意見を伝え合ったりすることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・調査や発表の効果的なやり方について考えるために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり、特徴を比較しながら調査の結果や意見を伝え合ったりしようとする。【学びに向かう力, 人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて伝え合っている。	調査や発表の効果的なやり方について考えるために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり、特徴を比較しながら調査の結果や意見を伝え合ったりすることができる。	調査や発表の効果的なやり方について考えるために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり、特徴を比較しながら調査の結果や意見を伝え合ったりしようとしている。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、映画ヒットランキングやインターネットのトリビアクイズを用いた導入から、生徒たちが実際にトピックを決め、クラス内で調査を行い、その結果を発表し、評価をするという流れになっている。生徒たちにつけさせたい様々な力を本文とともに学ぶことができる。一連の発表までの流れを本文を通して学び、実際に体験させることで実社会で活用する素地を養うことができる。

(2) 生徒観

生徒は、日常的にペアトークの活動を行っており、短いやり取りを通じ創造性を伴ったアウトプットには慣れている。しかし、全体発表としてのプレゼンテーションについてはあまり経験がない。今回は、任意で組んだスタディペアの学び合いで調査・分析・意見をまとめ、クラス全体ではなく3分の1サイズのグループ発表にすることで、負担感を少なくして発表に臨むことを目指している。

(3) 指導観

言語材料では、比較級、最上級が扱われている。世の中には実に多くの比較が存在している。身近な物事を比較する言語活動を通して、確実にそれらの表現を習得させたい。その際、生徒たちにとって興味を抱きやすい事柄を題材として提示することを心がけたい。またICTを活用してお互いの調査対象や質問項目を相互に参照しながら進め、プレゼンテーションの目的を意識するよう指導する。

5 単元の指導評価計画（総時数 9 時間）

次	小単元名及び目標	主な学習活動	評価規準	重点	記録
1	Introduction / Preview 本文の内容を理解し、複数のものを比べた結果を伝えるために、情報を捉えたり説明したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元全体の見通しを立て、リスニングでパートの内容を把握する。 ・ 比較級の形・意味・用法を理解して絵を見て表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形容詞と副詞の比較級を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて説明する技能を身につけている。 [ルーズリーフ] 	知	
2 (本時)	Scene 1 イラストを見て複数のものを比べた結果を伝えるために、情報を捉えたり説明したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最上級の形・意味・用法を理解して、イラストを見てキーワードを適切に活用させてスキットを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形容詞と副詞の最上級を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて説明する技能を身につけている。 [ルーズリーフ記述] 	知	
3	Scene 2 イラストを見て複数のものを比べた結果を伝えるために、情報を捉えたり説明したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの比較表現を復習し、more / most を使用する形容詞と副詞の特徴を副教材で調べて整理し、パターン練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて説明する技能を身につけている。 [ワークシート] 	知	
4	Mini Activity 自分の気持ちを伝え合うために、複数のものを比較して伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の好きなことやものについてのクイズを作り、出題する。 ・ クラスメイトが興味のあることについて、インタビューする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて伝え合う技能を身につけている。 [ワークシート] 	知	○
5	Read and Think 1 調査の結果について理解したり伝え合ったりするために、複数のものを比べた文章の概要を説明したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不規則に変化する形容詞・副詞について理解し、イラストを見てキーワードを適切に活用させてスキットを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較表現(better / best)を用いた文の形・意味・用法を理解している。 [ルーズリーフ記述] 	知	
6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章から読み取れることをグラフに表し、そのグラフからわかることを英語で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の結果について理解したり伝え合ったりするために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて説明したりしている。 [行動観察、ワークシート] 	思	○
7	Read and Think 2 身近なトピックを通して、調査や発表の効果的なやり方について考えるために、発表の内容について評価する文章の概要を捉えたり、程度が同じくらいのことを説明したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較表現(as-as)を用いた文の形・意味・用法を理解し、イラストを見てキーワードを用いてスキットを作る。 ・ 否定文の意味変化を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較表現(as-as)を用いた文の形・意味・用法を理解している。 [ワークシート] 	知	
8		<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の内容について評価する文章の概要を捉え、自分たちが発表するとき何を注意してすべきかを考える。 ・ デリバリー面の評価項目を考えて、自分なりの目標を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なトピックを通して、調査や発表の効果的なやり方について考えるために、発表の内容について評価する文章の概要を捉え、評価項目を考えている。 [ワークシート] 	思	○

9	Unit Activity 目的地までの行き方を決めるために、複数の交通手段を比べて、意見を伝え合ったり書いたりすることができる。	・目的地までの5種類の移動方法を比べて話し合い、根拠をそえて自分の意見をまとめる。	・目的地までの行き方を決めるために、複数の交通手段を比べて、意見を伝え合ったり書いたりしている。 [ワークシート]	思	○
---	---	---	--	---	---

6 本時の学習（第2時）

(1) 小单元名 Scene 1

(2) 本時のねらい

イラストを見て複数のものを比べた結果を伝えるために、情報を捉えたり説明したりできる。

【知識・技能】

(3) 準備・資料など Talk and Talk 2、Chromebook

(4) 本時の展開

時間	学習活動	・指導上の工夫留意点 ●評価 ■B規準への手立て
	○ 目標を達成した姿の明確化	
導入 10	<ul style="list-style-type: none"> 単元の新出単語を音読し、タイピングでつづりを練習する。 Power Up Skitでクリエイティブアウトプット。 Teacher's Talkで3つ以上のものを比べて「いちばん…」と表現するときの形を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> タイピングをする時も小さく音読し、音とつづりを関連付けて覚えられるようにする。 これまでの復習で、忘れていた部分を再確認する。 表現しにくいときは、否定文を使ったり、自由に話を作ったりしてもよいことにする。 黒板にイラストを描き、これから何を表現したいのかを明確にする。
	<学習課題> 3つ以上のものを比べて「いちばん…」を表現しよう。	
展開 35	<ul style="list-style-type: none"> 教科書で最上級の分の形と形容詞・副詞の活用を理解する。 Talk and Talk を使って、ペアで話す練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 形容詞・副詞の活用ではつづりに注意しなくてはいけないものは、過去の動詞の活用との類似点を出して説明する。 スキット練習ではどちらの役もさせて、「いちばん…」に対して「○番目に…」と言うときの語順をおさえておく。 英語を話すだけでなく、日本語で自分なりの訳をつけることで意味も理解しているかを確認する。
	○ 視点を明確にしたアウトプット	

<p>終末 5</p>	<p>・ 本時の学びをまとめる。</p>	<p>・ 練習した Talk and Talk のスキットをルーズリーフに書く。</p> <div data-bbox="295 203 1412 320" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><本時のまとめ> 最上級の意味・形・用法を理解し、キーワードを適切に活用させてイラストに沿ったスキットを書くことができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 形容詞と副詞の最上級を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて説明する技能を身につけている。 【知識・技能】（記述内容） ■ 例題に沿って語順を確かめさせる。 ■ 形容詞と副詞の活用のつづりルールは、エイゴラボ（副教材）の説明ページを示して確認させる。
-----------------	----------------------	---

輪島市の現状と課題の克服に向けて

～インプットからアウトプットにつなぐ～

輪島市立門前中学校 山本 安博

I テーマ設定の理由

令和5年12月に行った輪島市学力調査の結果を分析した。輪島市内中学3年生の現状として3文以上の英作文において全国平均と比較して、21.2%下回り、無回答率も75.7%に及んだ。また読むことにおいても全国平均と比較して、18.7%下回る結果となった。これらのことから自分の意見をまとまりのある文で書く力が弱い、まとまりのある文章を読み取る力が弱いなどということが課題として挙がり、その中でもまとまりのある文で書く力の向上を本研究の目的とした。

II 研究実践内容

(1) 意欲をもってアウトプットできるようにするための工夫

本研究ではインプットからより良いアウトプットにどのようにつなげていくかを目標とした。この目標を達成するために必要なことは「相手意識を持たせること」と「ゴールイメージを持たせること」であるという結論に至った。

(2) 実践の具体

定期的に行っている輪島市学校教育研究会英語部会では、上記の2点について意識した授業実践を報告・共有した。

【相手意識を持たせる実践】

実践例1：海外の生徒との手紙のやり取り（New Horizon English Course 1 Unit4）

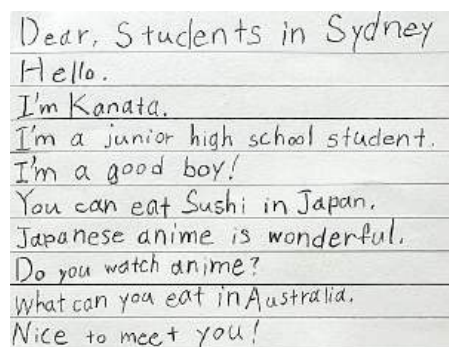
本単元ではインターネット電話でニュージーランドの生徒と日本の生徒がお互いの学校生活などについて話し合うという設定である。同じような状況を設定するために、ALTの協力を得て、オーストラリアの日本語補習校の生徒を紹介してもらい、手紙でやり取りを行った。まずはオーストラリアの生徒からもらった手紙を読み、自分たちが紹介したいことを手紙にすることにより、相手意識をより強く持ってライティング活動に取り組むことができた。

実践例2：小学校や他校との連携を生かした実践

（New Horizon English Course 2 Unit2 / New Horizon English Course1 Unit6）

震災や豪雨の影響で近隣の小学校や中学校で授業を行っている状況を逆に生かした実践である。2年生のUnit2ではツアーコンダクターになったつもりで観光地の紹介レポートを書き、そのレポートを小学生に見てもらい、どれがよかったかを投票してもらった。また、1年生のUnit6では自分の中学校の先生について紹介文を書き、校舎を借りている中学校の生徒に先生を知ってもらう実践を行った。

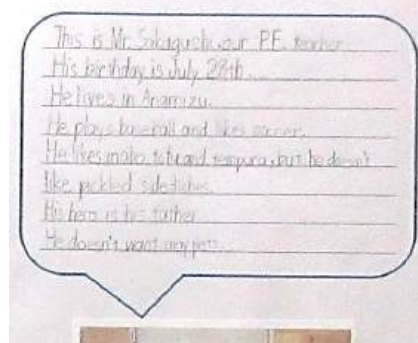
実践例1



実践例 2



This is our teacher!



【ゴールイメージを持たせる実践】

実践例：単元末のレポート例の提示とそれに向かう活動

(New Horizon English Course3 Unit 3)

本単元ではレッドリストにのっている動物たちについて知り、わかったことを発信する内容となっている。単元の初めにゴールを示し、生徒と何ができるようになれば良いのかを共有してから授業を行うことを心掛けた。本単元では単元末活動としてレポートを書くことをねらいとし、その見本となるレポートの具体を教師が例示することで、学習の見通しを持たせた。言語活動はレポート作成に向かうようにスモールステップで取り組み、その結果アウトプットへの意欲が高まるように工夫した。

実践例



Ⅲ 成果と課題

1学期期末テストと2学期期末テストにおいて英文を読み、それに対する自分の考えを書くことでこれまでの実践の検証を行った。成果と課題は以下の通りである。

(1)成果

これらの実践を通してわかったことは書く意欲が向上していることである。テストにおける検証でも無回答率が25%程度改善されていた。また相手意識を持った書き方が身についてきたことも生徒の解答を見て感じられた。読み手が理解しやすいように具体的な例を入れたり、説明する文を増やしたりするなど工夫が見られるようになった。さらに自分の気持ちや体験を書こうとする生徒も増えた。書く内容も自分の意見だけでなく、その理由として自分の体験を紹介したり、その時の気持ちも表現したりする生徒が増えた。

(2)課題

課題として3つ挙げられた。一つ目は無回答率が改善しているが、依然として一定数の無解答生徒もいる。そのような生徒への支援をどのように行っていくかが新たな課題として挙げられた。そして二つ目の課題としては書こうとする意欲が向上してきているが、適切さや正確さへの意識を高める工夫をどうするかである。三つ目は話すことから書くことへの段階的指導をさらに工夫していく必要があるということである。今後これらの課題を克服するための方策を議論していきたい。

小中連携を大切にした英語教育の充実

小松市立矢田野小学校 坂上 智子

I テーマ設定の理由

英語教育における小中連携の推進が重要であることは論を待たない。小松地区としてどのように連携を進めていけばよいか、小松市学校教育研究協議会英語部会で議論し、実践の在り方について意見交換と実践を行ってきた。

本研究の目的は、会員が中学校区ごとに小学校・中学校共通のテーマを掲げて英語教育を実践することで、校種を超えて共通理解を図り、児童生徒の英語学習を充実させることである。

II 研究実践内容

(1) 中学校区ごとの研究テーマ設定

小松地区は、小中合同での英語科研究会における授業交流や、校種ごとの情報交換を主に行ってきた。令和5年度より、小中連携の視点から中学校区ごとに小・中学校のグループに分かれ、児童生徒の学習実態の把握に努め、共通のテーマをもって指導してきた。令和6年度のグループは以下のとおりである。

令和6年度 実践テーマ

芦城中校区	「本物の気持ちを楽しく伝える言語活動 ～効果的な ICT, ワークシートの工夫～」
丸内中校区	「子どもたちがやり取りで使いたくなるようなヒントツールの工夫」
松陽中校区	「小中の授業で、英語でやり取りする場面の充実」
南部中校区	「間違いを恐れずやり取りするための場面設定の工夫」
御幸中・安宅中	「表現力を高めるための場面設定の工夫」
国府中・中海中・板津中・松東みどり学園・中海小・能美小	「やり取りする力を高めるためのウォームアップ活動」

(2) 各校区実践の具体

実践①丸内中校区 「子どもたちがやり取りで使いたくなるようなヒントツールの工夫」

(a) 稚松小学校（全学年共通）授業時に、「リアクションしよう！」という意味の「1R」というカードを常に掲示し、児童の意識を高めた。具体的なリアクションの3段階の方法と例を示したワークシートを児童に配布し、常に意識できるよう指導した。

(b) 丸内中学校（2年生 Lesson 4）「ALT のパット先生に自分が行きたい国について伝えよう」活動にあたり、ヒントツールとして事前に生徒が言いたいことを簡単に書き込めるようなワークシートを作成し、個人のタブレットに配布した。生徒はこれを用いて情報を整理し、やり取りや発表に活用した。

このように、小・中を通じてヒントツールを活用することで児童生徒が意識しやすくなったり、活動をイメージしやすくなったりした。

実践②松陽中学校区 「やり取りの授業機会を増やそう」

(a)今江小学校（3年生 Unit 4）「オリジナルレインボーを紹介しよう」

相手の話に反応し、相づちを工夫して言おうとする様子を紹介した。使用語彙は OK, I see, Beautiful, Yes.の4つを組み合わせて使っていた。

(b) 苗代小学校（6年生 Unit 3）「週末にしたことを伝え合おう」

相手の言葉に対して、一言でも反応を返してみようと指導して実践。

A: Hello.	B: Hello.
A: How was your weekend?	B: It was fun. We went to the ground. We enjoyed playing baseball with my teammates.
A: <u>Oh, nice.</u>	B: Thank you.
A: Thank you.	

(c)松陽中学校（1年生1学期）「1 minute speaking sheet を使った会話練習と ALT とのインタビューテストの実践事例」

英語でのやり取りを充実させるためには、質問に対する答え方を定着させる必要があると考え、1年生では、授業の最初に「1 minute speaking sheet」を使った会話練習を続けている。

やり取りの練習を経て、質問に対して適切に答えることを目標として ALT とのインタビューテストを行った。

(d)松陽中学校（3年生）「話題を変えたり発展させたりしながら、対話を続ける実践事例」

生徒同士や ALT と、より自然なやり取りができるように指導。ALT からの問いかけに対して、ごく自然な形で返事をしたり、さらに質問を付け加えたりして会話を発展させている様子が見られた。

継続的な指導により、日常的な話題についてやり取りの充実が見られた。小・中学校が同じ方向を向いて意識して指導することが、児童生徒の成長につながっていくことを期待して指導している。

Ⅲ 成果と課題

(1)成果

校区や学校のグループごとに話し合い、それぞれが児童生徒に付けたい力をテーマとして明確にしたことで、共通の意識をもって学習活動に取り組むことができた。また、年5回の研究協議会で模擬授業、研究授業や、教材の交流など、実践事例を持ち寄って議論を重ねることで、小学校の丁寧な指導の様子を知ったり、中学校の専門性を参考にしたりと互いに学びあうことができ、校種を超えて取り組みの様子や具体を共有化することができた。さらに、校区としてのつながりをもてたことで、小学校ではより未来を見据えた指導を、中学校では小学校の学びを踏まえた指導を意識することができるようになり、より具体的な小中連携を図ることができた。

(2)課題

一方で、特に小学校は年度によって担当学年や担当教科が変わるため、全ての校区で設定したテーマについて継続して研究することが難しく、研究テーマの変更や校区の再編成を余儀なくされたり、学習効果を検証することが難しかったりした。今後、児童生徒が安心して学び、楽しく力をつけていくためにも、小松地区として議論と実践を深め、英語科における小中連携を深めていきたい。

意欲をもって学びに向かう英語教育

～令和の日本型学校教育を通して～

学校名 加賀市立錦城中学校 名前 小川 健生

I テーマ設定の理由

加賀市の教育目標は「BE THE PLAYER」である。この目標を達成するために、一斉授業でなく生徒一人一人が主役となる英語の授業、つまり「令和の日本型教育の実践」をテーマとして設定した。

II 研究実践内容

(1)子どもに委ねる学び

自分で必要な学習を選択できる環境の提供(レベル別学習)、計画を立てて、学習を調整することができる(自己調整学習)、自分の学びを最適化できる環境の提供(ツールや環境の選択)の3本柱で実践を行った。

【実践の具体】

「レベル別学習」では、4技能における授業で、レベルに応じたワークシート等の教材を作成した。生徒は自分のレベルと照らし合わせ、教材を選択し授業に取り組んだ。(実践①)

「自己調整学習」では、単元計画、本時の流れや To-Do リスト、評価の共有、成果物の共有、振り返りシートの準備を行った。これらに共通する点は、子供が今後、現在、もしくは過去において、どのような取り組みを行うのか、しているのか、してきたのか、ということをも可視化できる点である。(実践②)

「ツールや環境の選択」では、発表や音声ツールなどの選択、題材の選択、あるいは活動場所の選択を子供たちに委ねた。(実践③)

(2)動機づけ

子どもが「自分事の問い」や「？」を持つこと、また「必然性」といった学習課題の工夫を意識して実践した。

【実践の具体】

「子どもが自分事の問いや『？』を持つこと」に関しては、目標をできるだけ自分の住む町や身近なものに関連付けた。「必然性」では、外国人との交流を定期的に設けることで、「英語で発話しなければならない」、「既習事項がコミュニケーションをとる上で生かせる」という意識を持たせた。

(実践④)

【実践①】

【リーディング原本】

Finally, in 1914, after many years and much effort, the law was removed. It showed that non-violent movements can be effective.

↓

【レベル別ワークシート】

Finaly /, in 1914 /, the

*unfair law disappeared.


Gandhi showed *non-violent

*movement can change the world.

・難しい単語や文法を避けるなどの意識

・イラストで支援

・主語・動詞の視覚化



【実践②】

1. 子供に委ねる授業 B 自己調整学習

*単元計画、*単元ゴールの共有

Unit5 学習単元計画表 (Unit5 schedule)

単元の目標 (Unit 5 goal)

単元目標	学習目標	学習内容	学習活動
1. 単元目標	単元の目標を達成する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習活動を学習する。
2. 単元目標	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習活動を学習する。
3. 単元目標	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習活動を学習する。
4. 単元目標	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習活動を学習する。

単元	単元目標	単元ゴール
1	単元の目標を達成する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
2	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
3	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
4	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
5	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
6	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
7	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
8	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
9	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。
10	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。	単元の目標を達成するために必要な学習内容を学習する。

【実践③】

子どもに委ねる授業 C ツールや環境の選択 (例)

題材の選択

SDGs-4 Quality Education—

4 質の高い教育をみんなに

In Japan, most of us can go to school and study. We think that it is not special, but normal. However, one of five children in Africa cannot go to elementary school. They don't have any chance to go to school and get an education. There are some reasons why they cannot go to school and get an education. The first reason is that they cannot go to school because of the war. They have to fight or escape. The other reason is that they have to get money to live. Many children sell fru

ほとんどもと
特別 みつう 5人に1人
機会
理由
戦う
逃げる
生活するために

活動場所の選択

教室 ↙



SDGs-14 Life Below Water—

6 安全な水とトイレを世界中に

Life Below Water is very important for our planet. It means protecting the oceans, seas, and all the animals that live there. Many fish, turtles, and other sea animals are in danger. This is because people are polluting the water. They throw trash and plastic into the oceans. This trash can hurt the animals. Also, some people catch too many fish. This makes it hard for the fish to grow and live. One big problem in the ocean is microplastics. Microplastics are

～の下 大切 ～を保護する
保護する ここに住んでいる動物
汚染している ゴミ
傷つける
多量に漁 難しくさせる
成長したり、生きるの難
マイクロプラスチック



オープンスペース ↗

【実践④】



Ⅲ 成果と課題

(1) 成果

従来の一斉授業では、取り残されてしまう生徒の特徴として、活動を始める前にあきらめてしまう傾向が多々見られた。しかし、今回の実践①②③のように、子どもに委ねる授業を行うことで、そのような生徒たち自身が自己決定できる場面が増え、「これならできるかな？」と少しでも取り組もうとする意識が芽生え、活動できる場面が多く見られた。

また、動機づけに関しては、日本人教師がどれほど工夫を凝らした場面設定をして生徒にコミュニケーション活動をさせても、日本人同士のやりとりではリアリティや緊張感が生まれにくく、限界があるといえる。そこで、外国人との交流という英語コミュニケーションの最も重要な場を意識的に設けることで、生徒の動機づけに大きな役割を果たすことができた。

(2) 課題

実践①に関しては、従来の授業準備よりも時間がかかることが課題といえる。また、環境の設定(実践③)では、無計画に自由な教室移動をさせてしまう場合がある。その結果、生徒が学習目的ではない活動を行う場面や移動に時間がかかる生徒が多く見られた。課題を防ぐためには、目的とルールについて教師と生徒があらかじめ共通認識を持つことが重要である。

さらに、外国人との交流の実施には、準備や計画の負担が教師に大きいのしかかる場合がある。そのため、次年度以降もスムーズに交流を継続できるよう、英語教師による引き継ぎをしっかりと行うことが大切である。

英語によるコミュニケーション能力の育成

～「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める指導法の工夫～

石川県河北郡市 かほく市立河北台中学校 蔵谷 朋也

I テーマ設定の理由

本地区の研究会では、英語の見方・考え方を働かせ、「より自然で本来のコミュニケーションの形に近い言語活動を継続して行う」ことで、生徒が自分の考えや気持ちを伝える力をより高めることができるのではないかと考えた。『話す』技能のうち、「やりとり」に焦点を当て、「覚えた英語を皆の前で発表する」だけでなく、「内容が伴った意味のあるやり取り」ができる生徒の育成を目指した。

II 研究実践内容

(1)明確な「目的・場面・状況」の設定

日ごろの授業において、生徒に明確な相手意識を持たせることで、臨場感のあるコミュニケーションの場を作り出すことができると仮定し、授業づくりを行った。

実践① <ALT に学校の先生を紹介しよう> 中学 1 年

本授業で生徒は、新しく赴任した ALT に学校の先生を紹介するという活動を行った。発表者による先生紹介、聞き手からその先生に関する質問を繰り返し行い、内容面の広がりや深まりを促した。一方的な発表で終わらず、質問（やりとり）を通して発表内容の再構築を図った。なお本授業では、生徒はメモや原稿を準備せず、イラストや写真を活用しながら発表に臨んだ。

実践② <ALT の弟に日本での旅行プランをプレゼンしよう> 中学 2 年

本授業で生徒は、旅行プランを紹介する役と日本に興味のある ALT の弟役として、日本での旅行プランについて「やりとり」による言語活動を行った。言語活動を繰り返し行う中で教師は、内容面・言語面に区別してフィードバックを行った。

また、プレゼンの手段を選択させたり、オクリンクを通して ALT からのメッセージ動画を送り、何度も見られるようにしたり、フィードバックシートで個人の目標を決めさせたり、と要所で自己決定の場を設定し、主体的に学ぶ学習集団の育成を図った。

(2)Authentic なゴール活動の設定

実践③ <おすすめの世界遺産ツアー> 中学 2 年

本授業では、「即興でのやりとり」のゴール活動という位置づけで、生徒は旅行会社の社員になりきり、おすすめの世界遺産ツアーを ALT に紹介した。まずはおすすめの世界遺産についての基本的な情報を伝え、お客さん役の ALT や級友からの質問に即興で返答した。相手のニーズを聞き出し、準備した情報をもとに、質問された内容に対し熱心に答える様子が見られた。

なお、生徒一人一人が、ALT と本物の「やりとり」を行う機会を十分確保するため、同市内勤務の計 4 名の ALT を授業に招いて実施した。

[生徒による振り返り]

- ・質問を聞かれたときの対応が準備不足で答えられないことも合ったので事前に細かいこともこれから調べていこうと思った。また、外国の方と話す機会があまりないので良い経験になりました。
- ・緊張したけど、ニーズに合わせて色々な人に場所をおすすめできた。けど、質問されたときに戸惑って答えられなかったときがあったので、アドリブ力を上げるために単語の意味を覚えて文を組み立てる力を身に付けていきたいです。
- ・受け身の表現を正しく使っておすすめできたし、どんな場所か詳しく調べて堂々と説明することができたので良かった。もっと急な質問に対応できるように言いたいことをわかりやすく言い換えられるように練習したい。

Ⅲ 成果と課題

(1)成果

実践①、②では、教師の中間評価と、個人・全体へのフィードバックを通して、生徒は「相手」を明確に意識できるようになり、場面や目的、状況に適した表現内容を考えることにつながり、言語面・内容面での深まりが見られた。さらに、明確な「目的・場面・状況」の設定は、より明確な評価やフィードバックにもつながることを実感できた。

また、メモを準備しないことで、やりとりを行う生徒の顔が自然に上がり、より相手を意識した言語活動を実現することができた。

実践③では、実際に英語のネイティブスピーカーである ALT に来てもらい、本物を相手に本物の英語でやりとりすることを通して、生徒の主体性やコミュニケーション能力の育成につながった。そして、生徒の「学んだ表現を使ってみよう」という学習に対しての粘り強さや、「英語を使った会話って楽しいな」という積極性を引き出すことができた。

このように、授業において、「目的・状況・場面」が明確になる仕掛けをすることで、本物のコミュニケーションの中で主体的に活発な言語活動を行う生徒の姿が見られるようになった。

(2)課題

今後の課題として、授業で学んだことややりとりした内容をどのように文章で表現する力につなげるかということが挙げられる。この問題を改善するために本地区の研究会では、生徒に自分の考えを英語で書くことをこれまで以上に習慣づけ、段階的に生徒が自分で本当に伝えたいことを文に表せるよう、フィードバックや支援をする必要がある。

また、せっかく身に付けた言語材料を場面に応じて使用できないという問題も挙げた。これに関しては、英語のパラフレーズを言語活動に取り入れる必要があると考える。そして、粘り強く自分の言葉で表現した先に、生徒が達成感を味わえるような工夫を取り入れる必要がある。

英語で伝え合い、Communicationを図ることができる 実践的英語力の育成のために

～生徒に委ねる時間の設定を通して～

七尾市立能登香島中学校 多知 雄太郎

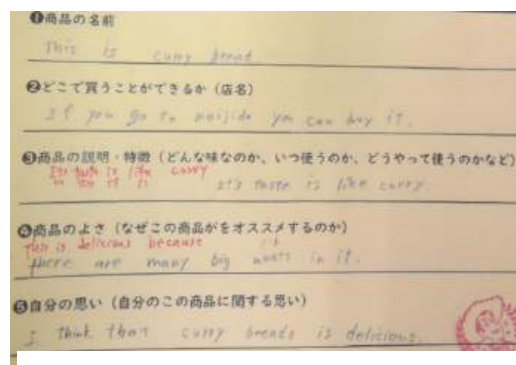
I テーマ設定の理由

本校では学力調査から「書くこと」が大きな課題となっており、指定された語彙を用いて場面に合う英文を作ったり、指定された語数で英作文を作ったりする問題の正答率が低い現状がある。また、自分の伝えたい内容を書いて表現することに苦手意識をもっている生徒は多く、英語の学習は好きだが、将来役に立つと思っている生徒は少ないことから英語力の向上にはつながっていない。その背景には「教師主導の授業」「わからないまま次に進む授業」「一部の生徒の意見で進む授業」の実態がある。そのため、学習意欲の向上、学習の個性化によって、学習者主体の授業への転換、「書くこと」の課題改善を図るために、仮説「授業の中に生徒主体の学びを取り入れることで自ら英語力の向上を目指そうとする資質が生まれ、「書くこと」の意欲と書く力の向上につながる」を立て、表記のテーマと手立てを設定した。

II 研究実践内容

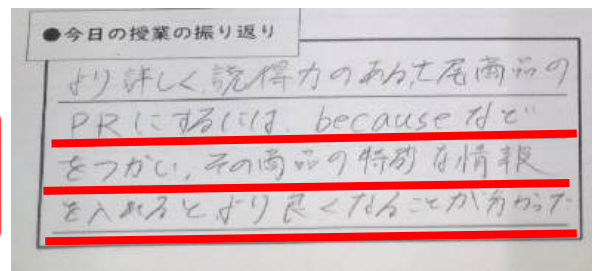
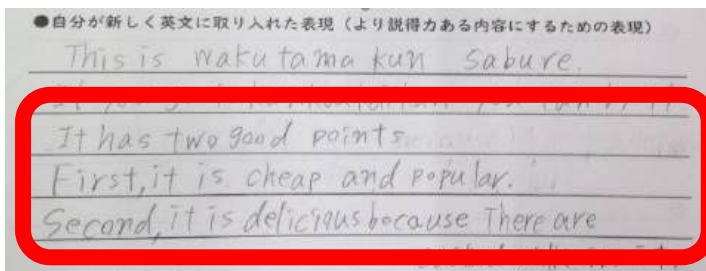
(1)委ねる時間の設定

各単元で生徒に委ねる時間を設定した単元デザインを作成した。この単元においては10時間の内、4時間に委ねる時間を設定した。そして、学習指導要領の「書くこと」「(イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする」のもと、単元での言語活動を総合的な学習の時間の活動と関連付け、「震災から地元七尾市の復興をPRするために七尾市の商品を海外の人に説明し、商品の魅力等を発信する」こととした。そして、必然性のある場面設定により、生徒自らが活動の解決方法を考え、単元末に向けて主体的に接続詞等を用いたまとまりのある文章を書く力を身に付けていくことを目指した。



↑イングリッシュリーダーによる点検

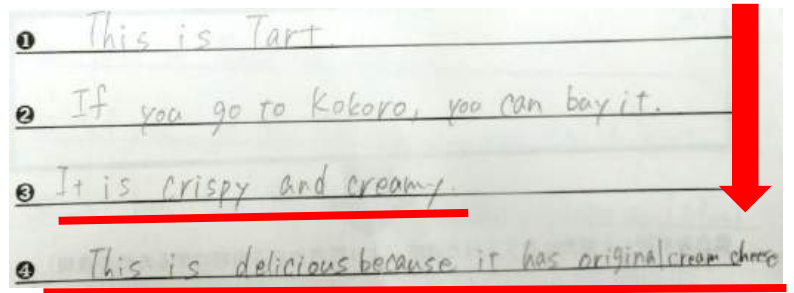
上記は個別最適な学びを目的とした委ねる時間での活動であり、生徒は自分が選択した商品を英語で説明する文章を作成した。タブレット上でヒントを提示し、自分の選択した商品がものなのか食べ物なのかに合わせて味や見た目を表す形容詞、また、表現するための用法等を生徒が自分で確認することができるようにヒントカードを送信した。生徒は他にもヒントとなる動画、便利な表現や文法事項などのヒントカードを頼りに自分の力で文章を作成し、完成した文をイングリッシュリーダーによる相互点検で確認した。



上記は協働的な学びを目的とした委ねる時間での活動のものである。生徒は商品の魅力を書きまとめたうえでペアでの交流や全体での共有を経て、First, Second を活用することが順序立てた説明になることに気づき、文章を再構成した。また、商品の特別な情報について because を用いて情報を付け加えることでより魅力的に伝わるということにも気づき、次時の学習、学びへとつなげた。委ねる時間では、生徒は自分がイメージする文章を作成するために、必要なヒントを活用したり、友達と教え合ったり、個人で取り組んだりし、教師は活動の見取りから個別対応や全体指導などを行った。

(2)自己決定の場の設定

自己決定の場は「商品の魅力を深めていくこと」を目的として設定した。生徒は自分が紹介したい商品のよさについて伝えるべきことを再度確認し、何を活用して文章を作成するか解決方法を自己決定した。また、生徒は振り返りで次時の課題を記載しており、そのことが次時の学習に向けた自己決定と主体性の育成につながった。そして、生徒は商品の魅力を伝える内容について授業ごとに表現を加え、委ねる時間でのペアやグループによるチェックを通して文章としてのレベルアップを図った。



↑商品の魅力を深めるための文（相互チェック済）

Ⅲ 成果と課題

(1)成果

「英語の学習でどの活動が好きですか」と再度アンケートを行ったところ、「書くこと」が好きなという生徒が当初の17%から32%まで増加した。パフォーマンステストや定期テストからは、自分が伝えたい内容を文章の構成を考え、まとまりのある文章として書くことができる生徒が増えたことは正答率からもわかる。学習者主体の授業という観点からも意欲的に授業に参加し、活動に取り組む生徒が多く見られるようになっている。

(2)課題

主体的な学びを目指したことで、何を伝えればよいのかわからない、何も伝えたいことがないという生徒は減少したが、基礎基本の不十分さから書いたことが正しいか不安をもつ生徒は少なくない。

今後は、仮説のもと、学習意欲・主体性を高め、書く力の向上を図るために委ねる時間の設定と自己決定の場をさらに工夫し、言語活動においても適切な場面を設定することで相手意識、目的意識の明確化を図っていく。また、ICT端末や生成AIの活用法の検討も必要と考える。時代の流れの中、コミュニケーション能力の向上につながる活用法として、生成AIによる英文の添削や表現内容の工夫を図っていくことを検討していきたい。

言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する授業づくり

～各校の実践を通して～

金沢市立浅野川中学校 安原 素子

I テーマ設定の理由

金沢市では、コミュニケーション能力は対話力であるという共通理解のもと、授業では生徒に「あるトピックについて即興でやりとりができる」「友達の発表や発言に対して、反応やコメントができる」「自分の考えをまとまりのある英文で書くことができる」といった力を身につけさせること、そして「単元末で既習を活かした活動を行う」ことを意識して授業実践を行ってきた。研究を進める中で、①「やりとりをさせる際のテーマの設定や工夫」②「教師の見取り」③「やりとりの正確性の引き上げ」という共通した大きな3つの課題が浮かび上がってきた。そこでこれら3つの課題について、研究委員在籍の各学校で担当する重点課題を決め、実践やその成果・課題を共有することとした。

II 研究実践内容

(1)①「やりとりをさせる際のテーマの設定や工夫」(大徳中学校・緑中学校)

教師が質問を与えるのではなく、生徒自身が友達に聞いてみたいテーマや質問を考え、実際に Google Form で質問をしたり、発表原稿を考えたりした。また、習得させたい言語材料を使わせることだけに焦点を当てるのではなく、相手の知らない一面を引き出すことや、説得力のある具体的な意見のやりとりをさせるといった狙いも持つことで、やりとりをより充実させた。

(2)②「教師の見取り」(西南部中学校・泉中学校・北陸学院中学校)

ネームプレートの活用、音読の際の生徒の向きの変化による回数の把握、発表ペアの月ごとの固定、オクリンクプラスやクラスルームを含めたクロムブックの活用といった工夫を行い、見取りをより正確に、平等に行えるようにした。

(3)③「やりとりの正確性の引き上げ」(金沢大学附属中学校・浅野川中学校・額中学校・北鳴中学校)

正確に読み取らせるための語数指定のチャンクの抜き出し、トライ&エラーの繰り返し、友達との表現の学び合い、教師による recast、会話や発表、書かせたものの中間評価、個または全体へのフィードバックなどを行った。

III 成果と課題

(1)成果

①「やりとりをさせる際のテーマの設定や工夫」

多くの学校が即興性を養うためにスモールトークを実践しており、その際、教科書ですでに扱われている質問や本時の流れに沿った質問を使用していることが多いが、生徒自身が友達に聞いてみたいテーマや質問を考え活動することで、生徒がより主体的に、意欲的に取り組む姿が見られた。生徒の感想文や振り返りのコメントにそれらが表れていた。

～生徒の発表より～

Do you like rice balls? We asked our classmates this question. We asked the "yes" group, "What kind of rice balls do you like?" Please look at the graphs. According to our research, about ninety-five percent of our classmates like rice balls. As for the kind of rice balls, about thirty percent of our classmates like grilled salmon rice balls the best.

About sixteen percent of our classmates like pickled plum rice balls the best, also tuna mayo and pressed sushi got the same number. About ten percent of classmates like other kinds, such as sea kelp, cod roe. As a result of our research, we found that grilled salmon rice balls are the most popular in our class. However, thirty percent of classmates like pressed sushi the best. That was a big surprise to us.

②「教師の見取り」

どの実践も、教師が生徒の進行具合や変容を把握するのに役立つのはもちろん、生徒が他の生徒の良い表現を参考にすることができるというメリットもあった。また、クロムブックを使用することで、制作途中の英文を確認し、すぐに添削をしたりヒントを与えたりすることができる他、良い作品をすぐに生徒全員とシェアしたり、教師が英文をより少ない時間で点検することもできた。生徒の作品データが残るので、評価の参考にしたり、振り返って生徒自身が変容を確認したりすることもできた。



③「やりとりの正確性の引き上げ」

話す活動では、友達の表現や教師の recast を聞いて適切で正しい英語に触れる機会を設け、その後再度話す際に活かすことや、各活動後には生徒が英語で書く、そして生徒が書いた英文を教師が添削し、生徒自身がリライトすることなど、生徒自身にトライ＆エラーを何度も経験させ、その中で自然と正しい英語が身につくよう仕掛けを行っている点が、どの学校の実践にも共通していた。

(2)課題

①「やりとりをさせる際のテーマの設定や工夫」

生徒自身が友達に聞いてみたいテーマや質問を考え活動する機会は、いつも設定できるわけではなく、学期に1～2回と数が限られてしまう。しかし、だからこそ数少ない絶好のチャンスと捉え、生徒がより主体的意欲的に取り組めるよう、教師が事前に十分に計画を立て準備をした上で、狙いを意識した活動をさせることが重要であると考え。

②「教師の見取り」

クロムブックを使用して動画を作成した場合、生徒の音声聞き取り辛い場合があること、タイピングに慣れていない生徒にとっては、スペルミスが多く、クロムブックを使用するよりも紙に書く活動の方が取り組みやすいといった意見もあった。1時間ですべての生徒の実態を把握することは難しいが、できる限り多くの生徒の実態や変容を把握できるよう教師が意識すること、そしてそのために他の教師の実践例も真似できる部分は参考にして、授業改善を行うことが必要だと考える。

③「やりとりの正確性の引き上げ」

生徒のやる気や自信を伸ばしつつ、生徒の英語の幅を広げたり、より正しく適切な英語の知識や表現を与えたりすることは簡単ではない。しかし、正確性の引き上げには長い時間と多くの失敗も含めた経験が必要であるという共通認識の元、教師が根気強く指導に当たることが重要だと考える。

(3)まとめ

各校の実践を共有することで、授業について同じ悩みを抱えている教師へのヒントになった。すぐに取り入れられる取組については、他の学校でも実践する価値があると考え。課題については、さらに創意工夫しながら授業改善に取り組んでいきたい。金沢市では令和7年度から新金沢型学校教育モデルの取組が始まる。金沢市小中学校のそれぞれの英語部会で、今後研究を深めていきたい。

本文化紹介」の学習の導入に取り入れた。



動画には字幕をつけて、小学生に見てもらいました。

発表の様子と、良いポイントを小学生にもわかりやすく！

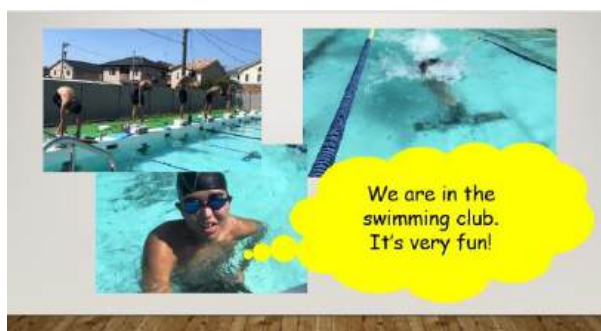


●小学生からの反応●

- ・たくさんの日本文化があり、参考になった。
- ・スラスラ話していてすごいと思った。
- ・相手を見ながら言っていて、伝えようとしていることがわかった。
- ・スライドがあってわかりやすかった。
- ・堂々と話している姿がかっこよかったし、あんなふうに話せるようになりたいと思った。

(3)中学校の部活動紹介（学校紹介含む）

以下、その資料である。



部活動の様子を撮影したものに各部活動の部長の短い英語での紹介を入ったものを小学生が視聴。

IV 成果と課題

(1)成果

第1回研修会では、校区内の中学校と小学校でお互いの CAN-DO リスト交換をし、それぞれの学習到達目標を共有できた。全3回の研修会と研究授業を通し、子供主体の授業とねらい達成に向けた単元デザインについて、小中の教員が校種を超えて意見を交わし合うことで理解を深めることができた。

(2)課題

市内のさらなる小中連携に向けて、例えば、「自己紹介」や「マイヒーロー紹介」など小中で同じ題材を扱う単元のゴールの姿について学びの連続性を意識しながら協議するなど、今後は小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定が課題である。

話すこと(やりとり)の育成

～OST 実践の視点から～

川北町立川北中学校 八田 幸樹

I テーマ設定の理由

川北中学校では毎年 OST (Online Speaking Training) を年に 1 度実施している。OST ではネイティブスピーカーの先生と一対一で話すことができる。この機会をより効果的なものにし、生徒一人ひとりの確かな学力へと結びつけるためにはどのような工夫ができるか考えたい。本研究の目的は(1)OST の効果を明らかにすること、(2)4 技能 5 領域の力をより効果的に伸ばすためにできることを明らかにすることである。



II 研究実践内容

(1)OST の効果的な活用方法

これまで川北中学校では、6 年間 OST の実践を行ってきている。OST を確かな学力へとつなげるために、次の 3 つのことに取り組んだ。一つ目として、会話の途中で分からない単語や言いたかったが言えなかったフレーズが出てきたときにメモを取りながらやりとりを行うことを実践した。レッスン後に単語の意味や、伝えたかったことを伝えるために必要な表現を調べ、理解することで、学力の向上へとつなげた。

二つ目として、OST 後にアンケートを実施し、生徒の思いを受けとめ、今後に生かそうとした。また、アンケートを実施したことで、自身の英語の学びをふりかえらせた。アンケートには「習ったことを意識して伝わったとき、うれしかったです。」や「去年の OST より外国人の先生が話していることが聞けるようになったので、成長していると実感しました。」など、肯定的な意見が多数ある一方、「相手の速さにまったくついていけなかった。」や「英語が分からなくて、相手を待たせてしまうことがあり、申し訳なかった。」などの意見もあった。アンケート結果から、即興でのやりとりの活動を増やしたり、英会話で使える日常会話の表現を練習したり、各学年に応じたフィードバックを行った。即興のやりとりとして、1minute talk を行い、テーマについて即興でやりとりを行った。ALT が社会的な話題についてトピックを提示し議論した。

最後に、OST をパフォーマンステストの機会として設定し、中程度の学力の生徒を抽出し、その生徒の 3 年間の変容を OST の様子から比較した。1 年時は外国人との 1 体 1 の対話に自信がなく、おどおどしているのに対し、2 年時には話すことに慣れ、相手の言っていることにリアクションを取ろうとしていたが、相手の聞いている内容に対して正しい返答ができていなかった。3 年時になると、堂々と自分の意見を話し、語彙の正確性にミスが見られるが、聞かれている内容に適切に答えること

ができていた。その様子を本人に見せることで、3年間の成長を実感させた。

Ⅲ 成果と課題

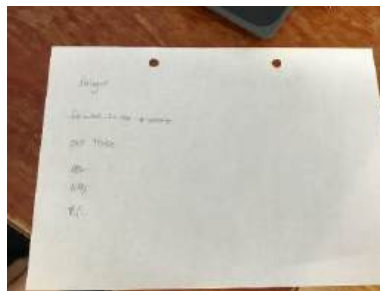
(1)成果

「メモを取り、後で調べることが自身の学びにつながったと思いますか」というアンケート結果に対しては、3年生では94%の肯定的な回答が、2年生では93%の肯定的な回答が見られ、生徒自身もOSTが学力へとつながる機会になったと考えていることが分かった。今後もメモを取り、個別に応じたフィードバックを自分自身で行えるようにしていきたい。

OST後に実施した英会話活動や、即興対話の活動では生徒が必要感をもって学習に臨めたので、とても意欲的に取り組んでいた。繰り返し帯学習として行ったため、表現が徐々に定着し、会話が続くようになる生徒も増えた。また、相手が会話に困っている際はFor example?と具体例を聞き出したり、A or Bのように選択肢を出したり、相手の表現を聞き出す生徒も見られた。

また、OSTを3年間かけて行い、同じ生徒の変容を比較することで、生徒の成長の様子を見取ることができた。OSTは生徒の変容を見取るパフォーマンステストの機会として効果的であり、その変容を生徒自身が見ることで、英語学習への動機付けになると考えられる。また、生徒の感想から、英語でのコミュニケーションが楽しいと感じることができ、英語の良さに気付くことができたのも、OSTの効果であったと考えられる。

生徒のメモ



(2)課題

スローラーナーへの支援が課題として残った。アンケート結果にも「聞き取れない英語が多かったから難しかった。」や「何を言えば良いのか相手の指示が分からないから、沈黙が続いてつらかった。」のような意見があった。事前に困ったときに使えるフレーズを練習したり、普段の授業の中で言いたいことを即興で表現させたりする機会を増やしていくことで、少しでも自信を持ってOSTに臨めるようにしたい。また、単発の機会として行われるため、生徒にとって目的、場面、状況が不明確のまま活動が始まってしまうことが課題だと考えている。そのため、単元末課題として設定し、外国人の先生に自分のこれまで考えてきた内容を紹介したり、相手の意見を聞き取ったりする活動として位置づけてみたい。

アンケート結果例

相手の速さに全くついていけなかった
何を言っているかわからなかった
ヘッドホンのイオンや普通に聞けなかったなどもあったけど意味がわかったり伝わったりするのが楽しかった
たくさん話せたから
聞き取れない英語が多かった
会話難しかったけれどがたのしかったから
相手の方が優しくかった
ostの途中から、英語が聞けるようになってきたから。
英語がわからなくて相手を待たせてしまう時間が多かった

令和6年度 愛知県（三河） 活動報告

研究会の名称	三河教育研究会英語（外国語活動）部会	
研究テーマ等	グローバル社会を生き抜く英語力の育成	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
4月12日（金）	第1回委員会議 1. 役員選出 2. 事業報告 3. 決算報告 4. 研究主題 5. 事業計画	愛知教育大学附属岡崎中学校
6月7日（金）	第2回委員会議 1. 夏季研修会 2. 予算	岡崎コンファレンスセンター
8月2日（金）	三河教育研究会英語（外国語活動）部会夏季研修会 ・ 研究発表（第1～4分科会） ・ 講演 演題「英語力の捉え方：小・中における指導と評価の観点から」 講師 長嶺 寿宣（龍谷大学 国際学部 教授）	知立市文化会館
8月6日（火）	愛知県公立中学校英語教育連絡協議会総会 参加	Zoom
8月8日（木） 8月9日（金）	東海北陸公立中学校英語教育研究会 三重大会 参加	アスト津プラザ
9月2日（月）	第3回委員会議 1. 令和7年度愛知県英語研究大会の計画 2. 研究分担および研究発表分担	紙上
2月7日（金）	第4回委員会議 1. 事業報告 2. 決算報告 3. 次年度事業計画	紙上

令和6年度 名古屋市 活動報告

研究会の名称	名古屋市英語教育研究会	
研究テーマ等	言語活動が充実している授業をめざして —「こども」が学ぶ「わたし」の授業デザイン—	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
5月16日(木)	総会	ルブラ王山
5月25日(土)	研究部 第1回研究部会	前津中学校
6月 1日(土)	教研部会・第1回学習会	名古屋市教育館
	講師：名古屋市英語教育研究会	
7月27日(土)	第2回学習会・第2回研究部会	前津中学校
	講師：名古屋市立志段味東小学校 山本 和人 先生 名古屋市立丸の内中学校 佐藤 慎太郎先生	
8月 7日(水)	夏季研究発表会・英語教育講演会	愛知県教育会館
	講師：立命館小学校教諭 正頭 英和先生	
8月21日(水)	Nagoya English Contest	名古屋市立大学
9月21日(土)	名古屋市教育研究集会	ウインクあいち
9月26日(木)	授業デザイン相談会	北山中学校
10月19日(土)	愛知県教育研究集会	ウインクあいち
10月26日(土)	第3回学習会・第3回研究部会	愛知県教育会館
	講師：関西外国語大学教授 直山 木綿子 先生	
11月 1日(金)	中高連絡協議会	旭丘高校
	講師：愛知県立旭丘高等学校 梅村 守先生	
1月18日(土)	第4回学習会・第4回研究部会	前津中学校
	講師：名古屋市立大高中学校 堀 晋弥 先生	
2月 6日(木)	年度末反省会	大高中学校
2月18日(火)	英語教育講演会・研究部発表会・総会	名古屋市教育館
	講師：名古屋市教育センター指導主事 吉本 仁信 先生	
3月13日(木)	「会誌」「研究の歩み」発送	北山中学校

令和6年度 愛知県（尾張地区） 活動報告

研究会の名称	尾張教育研究会	
研究テーマ等	未来を切り拓き、ともに生きる豊かな社会を創り出していく 児童生徒の育成	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
令和6年5月14日	尾教研英語部理事会 ・役員選出 ・令和5年度事業報告・会計報告について ・令和6年度事業計画について ・令和6年度予算案について ・本年度の会合について	東海市立 教員研修センター
令和6年5月24日	各地区研究集録論文執筆者氏名報告	
令和6年5月31日	研究集録論文執筆者資料送付 ・原稿執筆の要項	
令和6年6月	「愛小中英連」各地区代表者・庶務・会計打合せ会 「愛小中英連」常任委員及び委員合同委員会	各所属校等
令和6年10月	各地区研究集会開催	各地区
令和6年10月10日	愛知県英語教育研究大会	東海市立 勤労センター
令和6年11月29日	研究論文執筆者原稿提出締切	
令和6年12月13日	研究集録データを各地区に配信	
令和7年3月28日	尾教研英語部役員・郡市代表者へ事業報告書・会計報告書送付	

令和6年度 岐阜県 活動報告

研究会の名称	岐阜県小中学校英語研究部会	
研究テーマ等	「できた・分かった」を実感しながら、 コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
4月20日(土)	常任委員会 ◇今年度役員案, 研究部・事業部の活動内容の検討	関市 わかくさ・プラザ
5月15日(水)	第1回代議員会 ◇今年度の活動方針, 組織, 予算等の審議	オンラインで実施
5月18日(土)	第1回研究協議委員会 ◇研究テーマの提案 ◇所属部会の決定 ◇各所属部会にて研究方針や年間の見通しの確認	関市 アピセ・関
6月20日(木)	第2回研究協議委員会 ◇研究主題に迫るための方途の確認 ◇部会ごとの検討会(指導と評価の計画・テスト) ◇次回までの修正点, 今後の見通しについて確認	関市 アピセ・関
8月20日(火) 8月22日(木) 8月20日(火) 8月19日(月) 8月20日(火) 8月20日(火)	岐阜地区中学生英語スピーチコンテスト[37校・89人] 西濃地区中学生英語スピーチコンテスト[24校・60人] 美濃地区中学生英語スピーチコンテスト[18校・31人] 可茂地区中学生英語スピーチコンテスト[18校・35人] 東濃地区中学生英語スピーチコンテスト[32校・50人] 飛騨地区中学生英語スピーチコンテスト[20校・31人]	各会場 全地区, 参集型 で実施
9月28日(土)	第44回岐阜県中学校英語弁論大会	羽島市 岐阜聖徳学園大学 羽島キャンパス
10月22日(火)	第3回研究協議委員会 ◇研究主題に迫るための方途の確認 ◇部会ごとの検討会(指導と評価の計画・テスト) ◇次回までの修正点, 今後の見通しについて確認	関市 わかくさ・プラザ 学習情報館
12月7日(土)	第4回研究協議委員会 ◇成果刊行物づくりに向けての最終検討 ◇最終検討をふまえ, 原稿完成までの手順の確認	関市 わかくさ・プラザ 総合福祉会館
2月25日(火)	第2回代議員会 ◇今年度の活動報告, 来年度の見通し ◇来年度活動計画案の検討	オンラインで実施
3月29日(土)	常任委員会 ◇来年度組織案(役員・常任委員・研究員)の検討	関市 アピセ・関

※オンライン：令和3年度に契約した zoom アカウントを利用して開催

令和6年度 静岡県 活動報告

研究会の名称	静岡県教育研究会 英語教育研究部	
研究テーマ等	豊かなコミュニケーションを図る資質・能力の育成 ～小・中・高の接続を意識して～	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
5月8日(水)	第1回英語教育研究部委員研修会 (事業・予算報告、弁論大会打合わせなど)	静岡県教育会館
6月4日(火)	研究部・地域代表評議員研修会 兼 研究部代表者研修会 (事業・予算報告など)	静岡県教育会館
6月6日(火)	夏季研究大会事前研修会 (開催方法、運営等)	静岡県教育会館
8月8日(木)	第1回各部代表委員研修会	静岡県教育会館
	静岡県教育研究会英語教育研究部夏季大会 ○加茂地区、富士地区、志太地区発表 ○記念講演 演題 「外国語教育における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～個別最適な学びの一体的充実を踏まえて～」 講師 直山木綿子氏 (関西外国語大学英語キャリア学科教授)	いきがいセンター 開催地区集合開催 リアルタイム配信 オンデマンド配信
8月8日(木)	第48回東海北陸公立学校英語教育研究会三重大会	アスト津
9日(金)	(事務局参加)	
10月3日(木)	研究部代表研修会 (夏季大会成果と課題、次年度案の協議等)	静岡県教育会館
10月4日(金)	第76回静岡県中学校英語弁論大会 各地区(東部・中部・西部)代表計18名の生徒が出場	あざれあ
10月21日(月)	第2回英語教育研究部委員研修会 (夏季大会・弁論大会報告、次年度案の協議等)	静岡県教育会館
11月15日(金)	第74回全国教育研究大会(全英連埼玉大会)	サンシティホール
16日(土)	(事務局参加)	獨協大学
11月27日(水)～ 29日(金)	高円宮杯第76回全日本中学校英語弁論大会決勝予選大会(事務局参加)	よみうりホール
1月29日(水)	研究部代表者研修会② (事業報告・次年度事業計画案の協議等)	静岡県教育会館
2月25日(水)	第3回英語教育研究部委員研修会 (事業報告・次年度事業計画案の協議等)	静岡県教育会館
3月	英語部便りの発行 ○英語教育研究部活動報告、夏季研究大会の概要、 英語弁論大会結果報告 等	

令和6年度 石川県 活動報告

研究会の名称	石川県小中学校英語教育研究会	
研究テーマ等	豊富な英語のやり取りにあふれた教室	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
5月29日(水)	第一回理事・郡市委員研修会 1 役員選出 2 組織・事業・予算案の協議 3 会費 4 研究体制など	Zoom
7月25日(木)	夏季研修会 講師 大脇 裕也 氏 (大阪府大東市立北条中学校 教諭) 講師 山崎 寛己 氏 (新潟県新潟市立下山中学校 教諭)	地場産業振興センター
8月8日(木) 8月9日(金)	東海北陸大会(三重大会) 参加	三重県 アトラス津プラザ
11月22日(金)	秋の研究大会 内容：研究授業および授業整理会 授業者：金沢市立兼六中学校 教諭 田丸 聖汰 教諭 西尾 正俊 教諭	金沢市立兼六中学校
10月19日(土)	特別ワークショップ	白山市立光野中学校
11月28日(木)	「英語で生徒とのやり取りを進める」 8地区研究発表会(県下8地区より発表) 15:00～16:30 1 加賀 2 小松 3 能美郡市 4 白山野々市 5 河北郡市 6 羽・七・鹿 7 鳳・輪・珠 8 金沢	Zoom
2月14日(金)	第二回理事・郡市委員会研修会 1 令和6年度事業、決算報告 2 令和7年度組織、研究体制について 3 事業計画、年度当初報告書類 4 専門部からの確認	Zoom
2月末	会誌「いしかわ」オンラインでの配布	

令和6年度 福井県 活動報告

研究会の名称	福井県中学校教育研究会 英語部会	
研究テーマ等	英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
5月 2日(木)	第1回県英語研究会役員会	福井県国際交流会館
5月31日(金)	第1回英語部会郡市部長会	オンライン
6月12日(水)	県英語研究会総会・講演会 ・講師 向後 秀明 氏 (敬愛大学英語教育開発センター長) ・演題 英語教育改革完成年度の 指導と評価の振り返り ～今後の改善に向けた課題にどう対応すべきか～	福井県生活学習館
夏季休業中	英語セミナー	福井・南越・若狭 各ブロック
8月 1日(木)	福井県中学校教育研究集会 ・研究主題 「英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導の改善と充実」 ・発表校 福井・坂井 各ブロックの学校 ・助言者 県教育庁指導主事	オンライン
9月24日(火)	第67回中学校英語弁論大会	国際交流会館
8月20日(金)～ 12月20日(金)	県小教研英語部会研修会 ・講師 直山木綿子(関西外国語大学教授) ・演題 英語が好きになる授業とは ～言語活動を通しての具体～	動画配信 8/30～12/20
11月 1日(金)	福井県英語教育研究大会 福井大会 ・研究主題 自分の考えや気持ちを伝え合い深め合う生徒の育成 ～言語活動を軸とした単元・授業デザインの工夫～ ・内 容 公開授業・全体会 ・講演会講師：上田 外史彦 教授(金沢学院大学文学部)	福井市 光陽中学校
11月22日(金)	第2回英語部会郡市部長会	オンライン
1月30日(木)	第2回県英語研究会役員会	福井県国際交流会館
2月 4日(火)	第3回英語部会郡市部長会	オンライン

令和6年度 富山県中学校教育研究会 活動報告

研究会の名称	富山県中学校教育研究会 英語部会	
研究テーマ等	コミュニケーション能力を養うにはどのように指導したらよいか。 — 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して —	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
4月10日(水) 11日(木)	中教研学力調査(国語、社会、数学、理科、英語) 県内全中学校の2・3年生	各中学校
4月25日(木)	第1回研究部協議会 全体会(事業及び予算等の報告) 部会(研究主題、研究方法等の決定)	富山県総合 運動公園 陸上競技場
5月30日(木)	第1回部会専門研修会(郡市部長会) 各郡市部会の研究計画の交流、第68回研究大会の計画	富山県総合 教育センター
6月～9月	各郡市別研修会 研究授業、ワークショップ、意見交換等	各会場及び 資料発送
8月8日(木) 9日(金)	第48回東海北陸公立学校英語教育研究会 三重大会 記念講演: 関西大学外国語学部 教授 今井 裕之 氏 研究協議会①他者意識を育む「書く」「読む」活動 ②ペアワークを使った英語表現力向上の授業実践 ③生徒の心に火を灯す、指導と評価の一体化の実践 授業づくりへの提言: 愛知学院大学文学部 教授 藤田 賢 氏	アスト津 ブラザ 地震により2 日目の日程 は、中止
8月22日(木)	第68回研究大会事前研修会(地区別) 事前研究、運営、会計等についての協議	黒・明峰中 富・西部中 高・福岡中 小・蟹谷中
10月9日(水) 10月10日(木)	第68回富山県中学校教育研究大会(地区別) 研究授業、部会協議 授業力向上のためのアドバイザー事業: 文教大学教授 阿野 幸一 氏 とやまグローバル人材育成促進事業: 岐阜大学准教授 瀧沢 広人 氏	入・入善中 富・西部中 氷・西條中 小・蟹谷中
11月6日(水)	第2部会専門研修会(郡市部長会) 第68回研究大会を終えて、部会研究のまとめ 令和7年度研究計画(案)の作成	富山県 総合教育 センター
11月6日(水) 7日(木)	中教研学力調査(国語、社会、数学、理科、英語) 県内全中学校の1・2・3年生	各中学校
11月～12月	研究推進委員会 研究構想及び研究計画の見直し、令和7年度研究計画案の作成	富山県総合 教育センター
11月～1月	各郡市別研修会 研究授業、ワークショップ、意見交換等	各会場及び 資料発送
1月23日(木)	第2回研究部協議会 令和6年度研究のまとめと反省、令和7年度研究計画(案)検討 学力調査の分析報告、令和7年度研究大会会場予定校の確認	富山県総合 運動公園 陸上競技場
3月	「英語部会だより」の発行 第68回研究大会の成果と課題、各地区の取組の紹介	

令和6年度 三重県 活動報告

研究会の名称	三重県小中学校英語教育研究会	
研究テーマ等	実践的コミュニケーション能力の育成	
期 日	活 動 内 容 ・ 事 業 内 容	会 場 等
5月	総会 本年度の組織・事業計画について	メールにて
5月10日(金)	第48回東海北陸三重大会 第4回実行委員会	津市立一志中学校
6月14日(金)	第48回東海北陸三重大会 第5回実行委員会	津市立一志中学校
7月1日(月)	第48回東海北陸三重大会 会場打合せ	アスト津
7月10日(水)	第48回東海北陸三重大会 第6回実行委員会	津市立一志中学校
7月19日(金)	第48回東海北陸三重大会 大会冊子最終確認	津市立東橋内中学校
7月24日(水)	第48回東海北陸三重大会 運営委員打合せ	津市立一志中学校
8月5日(月)	第48回東海北陸三重大会 第7回実行委員会	津市立一志中学校
8月8日(木)9日(金)	第48回東海北陸公立学校英語教育研究会三重大会	アスト津
8月25日(日)	第2回授業研究部研修会	津リージョンプラザ
9月10日(火)	役員会 高円宮杯英語弁論大会三重大会準備	津市立一志中学校
9月28日(土)	高円宮杯第76回英語弁論大会三重大会	高田短期大学
10月21日(月)	第1回研修会 授業者：辻村 一将教諭 公開学年：中学校2年生 内容：NEW HORIZON English Course 2 Unit 5 Universal Design 講師：文教大学国際学部教授 阿野 幸一先生	伊賀市立霊峰中学校
12月21日(土)	第3回授業研究部研修会 講師：三重大学教育学部教授 金子 淳先生	津市立一志中学校
2月27日(木)	第48回東海北陸三重大会 第8回実行委員会(反省会)	津市立一志中学校
3月下旬	役員会 令和7年度役員人事について	メールにて

令和7年度 東海北陸公立学校英語教育研究会 各県・地区 会長・事務局担当者

			職名	勤務先	
愛知県 (三河)	学校数 488校	会長	瀬古 幸弘	校長	豊田市立挙母小学校
		事務局担当者	太田 憲佑	教諭	愛知教育大学附属岡崎中学校
	会員数 859名	事務局住所	愛知県岡崎市明大寺町栗林1		
		事務局TEL	0564-51-3637	事務局FAX	0564-54-4518
		事務局連絡先E-mail	k-ohta@aecc.aichi-edu.ac.jp		
愛知県 (名古屋)	学校数 111校	会長	玉腰 隆司	校長	名古屋市立宮根小学校
		事務局担当者	大脇 芳則	主幹教諭	名古屋市立高針台中学校
	会員数 177名	事務局住所	愛知県名古屋市名東区勢子坊3-801		
		事務局TEL	052-703-5121	事務局FAX	052-703-5172
		事務局連絡先E-mail	owaki0823@nagoya-c.ed.jp		
愛知県 (尾張)	学校数 506校	会長	戸田 恭子	校長	一宮市立今伊勢中学校
		事務局担当者	伊藤 康彦	教頭	一宮市立尾西第三中学校
	会員数 1073名	事務局住所	愛知県一宮市開明字村上54番地		
		事務局TEL	0586-28-8768	事務局FAX	0586-62-9142
		事務局連絡先E-mail	bisai3-j@city.ichinomiya.aichi.jp		
岐阜県	学校数 521校	会長	中村 行雄	校長	中津川市立南小学校
		事務局担当者	田中 大輔	教諭	関市立下有知中学校
	会員数 932名	事務局住所	岐阜県関市下有知3121番地1		
		事務局TEL	0575-22-3179	事務局FAX	0575-24-7968
		事務局連絡先E-mail	shimouchi-jh@edu.city.seki.gifu.jp		
静岡県	学校数 455校	会長	佐藤 一朗	校長	島田市立川根中学校
		事務局担当者	井浪 貴斗	教諭	掛川市立桜が丘中学校
	会員数 1005名	事務局住所	静岡県掛川市富部716		
		事務局TEL	0537-22-6278	事務局FAX	0537-22-6279
		事務局連絡先E-mail	office@sakuragaoka.ed.kakegawa-net.jp		
石川県	学校数 255校	会長	森中 静恵	校長	金沢市立額中学校
		事務局担当者	木村 祐太	教諭	金沢市立西南部中学校
	会員数 280名	事務局住所	石川県金沢市新保本1丁目149		
		事務局TEL	076-249-2317	事務局FAX	076-249-2538
		事務局連絡先E-mail	silvercord214@gmail.com		
福井県	学校数 77校	会長	鈴木 三千弥	校長	福井市光陽中学校
		事務局担当者	中島 佑介	教諭	福井市光陽中学校
	会員数 240名	事務局住所	福井県福井市光陽4-7-1		
		事務局TEL	0776-228828	事務局FAX	0776-22-8829
		事務局連絡先E-mail	y-nak972@fukui-city.ed.jp		
富山県	学校数 73校	会長	窪田 俊介	校長	高岡市立戸出中学校
		事務局担当者	塚田 亜由美	教頭	高岡市立福岡中学校
	会員数 253名	事務局住所	富山県高岡市福岡町荒屋敷350		
		事務局TEL	0766-64-3100	事務局FAX	0766-64-3101
		事務局連絡先E-mail	fukuokaj2@takaoka-city.ed.jp		
三重県	学校数 78校	会長	服部 美規子	校長	津市立明小学校
		事務局担当者	三浦 佐友里	教諭	津市立久居中学校
	会員数 89名	事務局住所	三重県津市久居西鷹跡町494		
		事務局TEL	059(255)2102	事務局FAX	059(255)1996
		事務局連絡先E-mail	j2552102@res-edu.ed.jp		

東海北陸公立学校英語教育研究会会則

- 第1条 名称 本会は、東海北陸公立学校英語教育研究会と称する。
- 第2条 目的 本会は、参加県における公立学校英語教育研究会の連絡を密にし、教育課程の研究交流や協議を通して、英語教育の振興を図ることを目的とする。
- 第3条 事業 本会は、上記の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 1 年1回の研究会（大会）を開催する。
 - ① 各県の義務教育の公立学校英語教育における諸問題の連絡及び協議を行う。
 - ② 各県の研究会活動における諸問題の報告及び協議を行う。
 - ③ 各県相互の有益な情報交換及び相互連携を行う。
 - 2 その他、必要な事業を行う。
- 第4条 組織 本会は、東海北陸の公立学校英語教育研究会の役員及び会員をもって組織する。
- 第5条 運営 本会の会長は、開催県の団体の長がその任を務め、関係事務はその団体が行う。
なお、開催県は7県の持ち回りとする。
- 第6条 役員 本会の役員は、原則として開催県の研究会の役員が兼務する。
- 第7条 事務局 本会の事務局は、原則として開催県の会長校に設置する。
- 第8条 分担金 本会の運営費の一部として、各県（愛知県は3ブロック）は分担金5千円を納める。
- 第9条 改正 本会の会則の改正は、各県代表者会の承認を経なければならない。
- 付 則 本会則は、昭和52年8月22日から施行する。
平成17年8月19日 一部改正
平成18年8月18日 一部改正
平成26年8月20日 一部改正
令和元年 8月 9日 一部改正

東海北陸公立学校英語教育研究会 開催順序

第 1 回	昭和 52 (1977) 年度	愛 知 (東海)	第 28 回	平成 16 (2004) 年度	石 川 (北陸)
第 2 回	昭和 53 (1978) 年度	岐 阜 (東海)	第 29 回	平成 17 (2005) 年度	愛 知 (東海)
第 3 回	昭和 54 (1979) 年度	福 井 (北陸)	第 30 回	平成 18 (2006) 年度	岐 阜 (東海)
第 4 回	昭和 55 (1980) 年度	静 岡 (東海)	第 31 回	平成 19 (2007) 年度	福 井 (北陸)
第 5 回	昭和 56 (1981) 年度	富 山 (北陸)	第 32 回	平成 20 (2008) 年度	静 岡 (東海)
第 6 回	昭和 57 (1982) 年度	三 重 (東海)	第 33 回	平成 21 (2009) 年度	富 山 (北陸)
第 7 回	昭和 58 (1983) 年度	石 川 (北陸)	第 34 回	平成 22 (2010) 年度	三 重 (東海)
第 8 回	昭和 59 (1984) 年度	愛 知 (東海)	第 35 回	平成 23 (2011) 年度	石 川 (北陸)
第 9 回	昭和 60 (1985) 年度	岐 阜 (東海)	第 36 回	平成 24 (2012) 年度	愛 知 (東海)
第 10 回	昭和 61 (1986) 年度	福 井 (北陸)	第 37 回	平成 25 (2013) 年度	岐 阜 (東海)
第 11 回	昭和 62 (1987) 年度	静 岡 (東海)	第 38 回	平成 26 (2014) 年度	福 井 (北陸)
第 12 回	昭和 63 (1988) 年度	富 山 (北陸)	第 39 回	平成 27 (2015) 年度	静 岡 (東海)
第 13 回	平成 元 (1989) 年度	三 重 (東海)	第 40 回	平成 28 (2016) 年度	富 山 (北陸)
第 14 回	平成 2 (1990) 年度	石 川 (北陸)	第 41 回	平成 29 (2017) 年度	三 重 (東海)
第 15 回	平成 3 (1991) 年度	愛 知 (東海)	第 42 回	平成 30 (2018) 年度	石 川 (北陸)
第 16 回	平成 4 (1992) 年度	岐 阜 (東海)	第 43 回	令和 元 (2019) 年度	愛 知 (東海)
第 17 回	平成 5 (1993) 年度	福 井 (北陸)	第 44 回	令和 2 (2020) 年度	岐 阜 (東海)
第 18 回	平成 6 (1994) 年度	静 岡 (東海)	第 45 回	令和 3 (2021) 年度	福 井 (北陸)
第 19 回	平成 7 (1995) 年度	富 山 (北陸)	第 46 回	令和 4 (2022) 年度	静 岡 (東海)
第 20 回	平成 8 (1996) 年度	三 重 (東海)	第 47 回	令和 5 (2023) 年度	富 山 (北陸)
第 21 回	平成 9 (1997) 年度	石 川 (北陸)	第 48 回	令和 6 (2024) 年度	三 重 (東海)
第 22 回	平成 10 (1998) 年度	愛 知 (東海)	第 49 回	令和 7 (2025) 年度	石 川 (北陸)
第 23 回	平成 11 (1999) 年度	岐 阜 (東海)	第 50 回	令和 8 (2026) 年度	愛 知 (東海)
第 24 回	平成 12 (2000) 年度	福 井 (北陸)	第 51 回	令和 9 (2027) 年度	岐 阜 (東海)
第 25 回	平成 13 (2001) 年度	静 岡 (東海)			
第 26 回	平成 14 (2002) 年度	富 山 (北陸)			
第 27 回	平成 15 (2003) 年度	三 重 (東海)			

